

ここは繁華街の外れにある、  
とあるフィットネスクラブ。

容姿、学力、運動神経、  
どれを取っても中の下くらいのパツとしない大学生、

俺、はやすぎ早杉ろう浪が

何故土曜の朝っぱらから  
こんな所に来ているのかと言うと…。

「こんにちは！ご予約いただいた早杉さんですか？」

「は…はい…」

「早漏矯正フィットネスへようこそ！」



私は本日の無料体験コースを担当させて頂く、  
わくら和倉えるまと申します！よろしくお願ひしますね！」

「よ…よろしくお願ひいたします(汗)」



…そう、俺はとんでもなく早漏なのだ。

コイツのせいで、ようやく出来た念願の彼女にも、先日早々にフラれてしまった…。

そりゃそうだ…。

一番大事な初エッチの日、

フェラはおろか、手コキをちよつとされただけで速攻イッてしまうような奴にドン引きしない女が何処にいる…。



失意のどん底にいた俺の目に飛び込んできたのが、偶然家のポストに入っていた、

ここ、早漏矯正フィットネスクラブのチラシだった。

最初は誰かのイタズラかと思い、全く気にも止めなかったが、

試しにネットで検索すると、どうやら本当にある施設らしい。

「…もし、本当に早漏を克服できるのなら…。」

まだ彼女の事を諦めきれずにいた俺は、

駄目元で無料体験コースを受けてみることにしたのだ。



「本日は無料体験コースですので、  
普段こちらの会員さんがどういったトレーニングを  
行っているのかを実際に見学して頂きます。」

では、こちらへどうぞ。」

そう言うと、えるまさんは

会員らしき1人の中年男性の元へ俺を案内した。



ここに通う目的が目的なだけに、やはり

無関係の人間と顔を合わせるのは気まずいのだろう。

軽く会釈をすると、中年男性はずっと床を見つめていた。

だが、そんな事よりも俺が気になったのは…。

(本当に……スツポンポンなんだな……(汗))

そう、目の前の男性はトレーニングウェアはおろか、  
パンツすら履いていなかった。

だが驚くことなかれ、ここではこれが普通なのだ。

ホームページでクラブの詳細は  
事前に確認していたものの、  
やはりこうして目の当たりにすると多少の動揺は隠せず、  
俺は視線を泳がせていた。

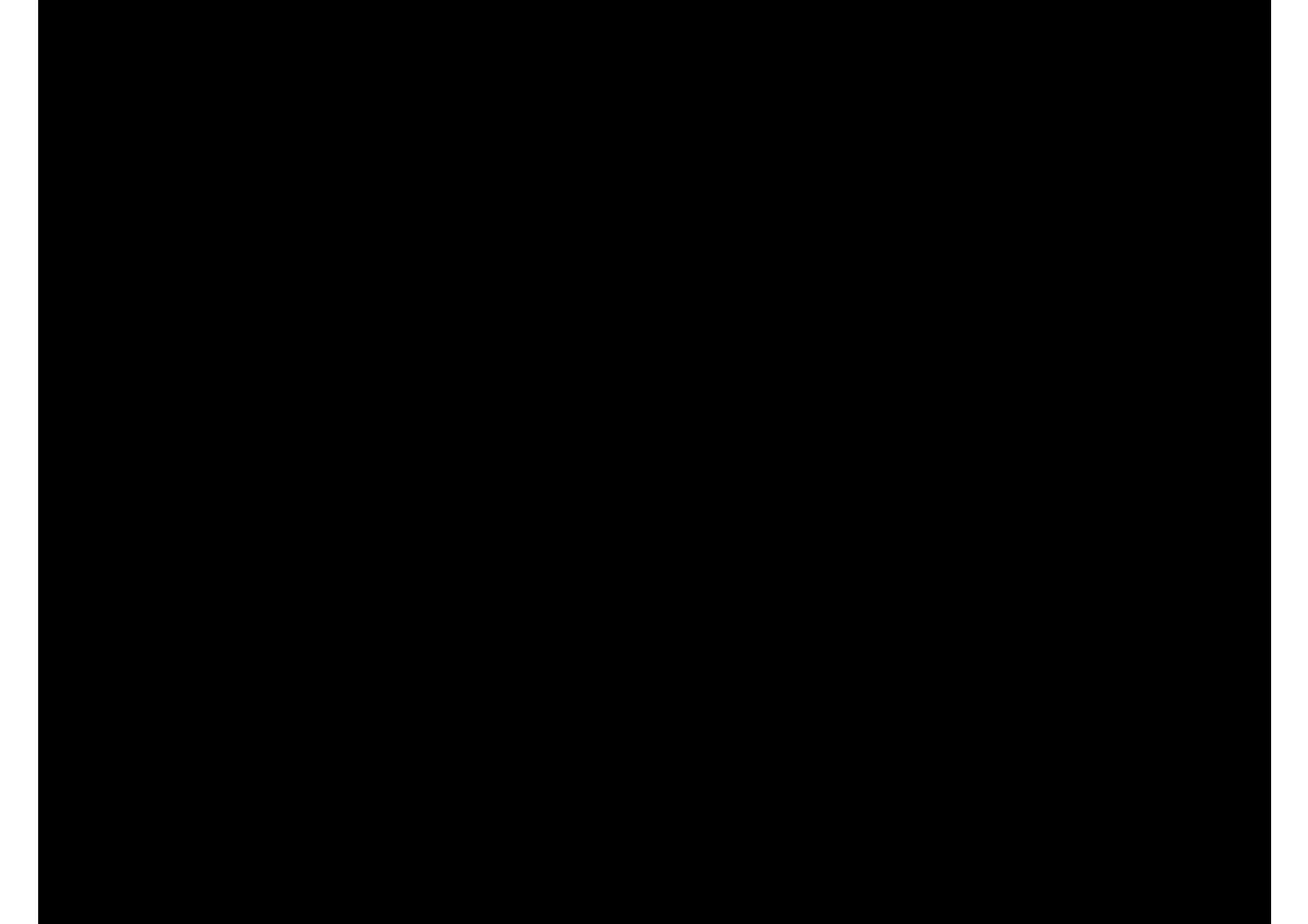
そんな俺を余所に、

えるまさんは男性とごく普通に会話を交わすと、

ゆっくりと腰をかがめ、男性の股間に顔を近づけていった。

いよいよ“矯正トレーニング”が始まる……。

俺はゴクリと唾を飲み込んだ。





「…では、いつものように  
トレーニングを始めていきましょようか」

あ、見学者の事は気にしなくていいですからからね」

「は…はい……大丈夫です」

「それではさっそく確認ですが、T中さん

前回私が出した“宿題”について

あの後実践されてみましたか？」

「…ええと…そのお…(汗)」



「あ~~~~っ まあた皮オナしちやつたんですね？  
も~~~~♡駄目じゃないですかあ~~~~♡」

「う……うや……あの……」

「隠したってバレバレですよ！  
スンスン……ほらあ♡」

皮の中からこびりついて発酵したチンカスの臭いが  
ここまで……♡

も~~~~♡ちゃんとお風呂で洗わないと  
女の子に嫌われちゃいますよ？ クスクス♡」

「う……(汗)」



「オナニーする時は、  
ちゃーんと皮をムキムキしてからじゃないと、

いつまで経っても刺激に慣れないですよ♡

それに皮もどんどん伸びて、勃起した時に余った部分が  
みつともない事になっちゃうって、

前回お話したじゃないですか♡

「す…すみません…」



「もお〜しよ〜がないですね…♡

それじゃあ今日もいつものように、  
まずは亀頭の洗浄からしちやいませしようか♡

…今日は途中でイツちゃわかないよう、  
頑張って我慢しましょうね♡

「が…がんばります…!」



「なるへふ優しふ舐めまふはら  
でひる限り我慢ひへふだはいねえ♡」

れろおお~~~~♡

「あうっ!! ああ…あああああ…!!」





「クスクス…♡

「まら皮の上はら舐めはだけでふよ〜♡」

れろれろれろれろ♡

「そ…：そ…うは…：言われても…：おあああああ!!」

「では…皮をムキムキさせて頂きますね♡

…ほくほくやつへえ♡ 皮の中に舌を入れへえ♡」

ズボツ…♡

「おうおうっ!!」





「ゆ~~~~っふりら

亀頭のまわりをなぞるよおに舌をはわせるほお…♡」

れろおおおおお~~~~ん♡

「あああっ…ああああああああ!!」



「ゆ〜〜〜っふりら

亀頭のまわりをなぞるよおに舌をはわせるほお…♡」

れろおおおお〜〜〜…♡ん♡

「あああっ…あああああああああ!!」



ムキツ…♡

「は〜〜い♡ズル剥けオチンチンの完成ですよお♡

…あはっ♡思ったとおりい、

黄ばんだチンカスチーズがこんなに…♡(ゴクリ…♡)」

「はあ…はあ…はあ…」



「…じゃあ、これも綺麗に舐めとっていきますね…♡」

「いただきます♡」

「はぁ…はぁ…はぁ…♡」





れろれろれろれろお♡

「ふほい…♡  
こそげへもこそげへも、ほんなにいつはい♡」

「ああああ!!

そ…そんなに舐められたら…もうっ!!」





「イグツツ!!」

ドピュッ♡  
ドピュッ♡  
ドピュッ♡  
ピュルッ♡

「あんっ♡」





「はあ… はあ… はあ… はあ…」

「…♡ も～～♡」

今日も全然我慢できてないじゃないですかあ

しょうがないですねえ♡」



